検証 全国学力テスト

アンケートから

学校情報 積極的に提供

学校へのアンケートでは、学校の情報を積極的に保護者や地域に提供する学校が増えている姿も浮かんだ。

前年度にどのくらいの頻度でホームページを更新して情報提供をしたかという問いに、「週に一回以上」「月に一回程度」と答えた小学校は計50%で、前年度より7ポイント増。中学校も合わせてほぼ半分に上り、同じく7ポイント増だった。

保護者からの意見や要望を聞くために懇談会を開催したり、アンケートをした小、中学校も増えており、保護者の意見を学校側が運営の参考にする姿勢がより明らかになった。

地域の人材を外部講師に招いて、授業をしてもらった学校は、小学校はやや増えたが、中学校は減少した。

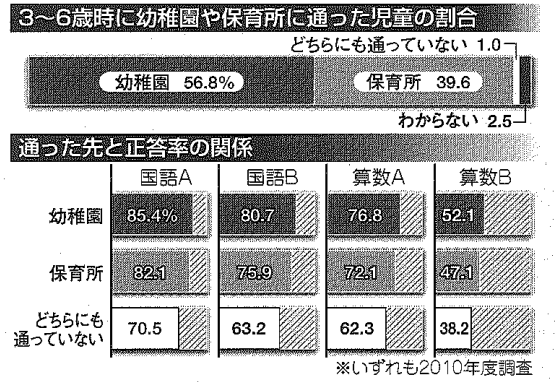
幼稚園出身 高い正答率

三歳から六歳の間に「幼稚園に通っていた」と答えた児童・生徒は、「保育所に通っていた」と答えた子どもと比べて、国語、算数いずれも正答率が高い傾向が見られた。

幼稚園出身の子どもは小学六年生で57%、中学三年生で59%と過半数を占め、保育所出身は小六で40%、中三で38%だった。

幼稚園に通った小六の国語Aの正答率は85%で、算数Aは77%に上った。保育所出身者は国語で82%、算数で72%で、いずれも幼稚園出身者が3~5ポイント上回った。中三でも幼稚園出身者が3~6ポイント正答率が高かった。

「どちらにも通っては一番低かった。



文科省の担当者は「幼児教育の重要性の一端が現れた。学力とは、具体的に学習方法の関係で実践につなげるためには、さらに細かい分析が必要だ」と話している。

具体的指導で学力向上傾向

学校側が授業で具体的に指導をした上で、家庭学習を行うと、学力が向上する傾向も浮き彫りになった。

学校へのアンケートによると、国語・算数、数学で調べたり文章を書いたりする宿題を多く出す傾向があり、積極的に具体例を挙げて教えるようにしていた。

保育園？それとも幼稚園？？

行政的には、保育園は厚生労働省管轄の児童福祉施設、幼稚園は文部科学省管轄の学校と区別されています。学校というと、何か難しいことを勉強するようなイメージがあるかもしれません・・・。

もちろん幼稚園では「あいうえおとすうじ」、「かずのワーク」、「せんのワーク」など、机に座って勉強もします。でも、子ども達にとってはそれだけが勉強ではありません。豊かな自然の中で思いっきり体を動かして泥んこになったり、身近な自然や色々な命と触れ合って命の大切さを学んだり、そして、先生やたくさんの友達と接する中で、色々な発見、色々な経験をすることが勉強なのです。

当園では新教育要領に基づき、５領域「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の中で、幼児の自主的な生活を尊重し、幼児が主体となって活動を行い、さまざまな遊びを通して総合的に指導しています。

そして、当園の教育目標でもある「たくましい子」、「創造性、想像性豊かな子」、「友達を大事にする子」を育て、個性を伸ばす教育、体力を伸ばす教育を行うことを目標としています。また、仏教系の幼稚園として情操教育（心の教育）にも力を入れています。

左の新聞記事（中日新聞、平成２２年７月３１日）をご覧ください。幼稚園出身児童の正答率（学力）の高さ、つまり幼児教育の重要性がお分かりいただけると思います。

幼児期に育てるべき能力や態度を、具体的な活動や経験を通して楽しく遊びながら身につけていけるのが幼稚園なのです。他園からの転園（転入）も受け付けておりますので、ぜひとも美濃ふたば幼稚園への入園をご検討ください。